

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が2,883例あり、本年の累積報告数は100,943例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が1例(80歳代男性)あり、本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ **アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)**の報告が1例(60歳代男性)あり、本年の累積報告数は5例となりました。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(60歳代女性)あり、本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が1例(70歳代男性)あり、本年の累積報告数は10例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が6例(20歳代男性・30歳代男性・40歳代男性各1例, 50歳代男性2例, 40歳代女性1例)(前週以前の追加報告分含む)あり、本年の累積報告数は41例となりました。
- ・ **感染性胃腸炎**は、京都市・全国ともに3週連続で増加しているものの、いずれも過去5年平均値程度あるいはそれを下回って推移しており、流行とまでは言えません。しかしながら、夏に向かって食中毒や施設等での集団発生に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <サル痘>

2022年5月7日英国健康安全局は、イギリスでサル痘患者が報告されたと発表しました。その患者はサル痘の流行地域であるナイジェリアへの渡航歴があったため当初は輸入症例と考えられていましたが、その後ヨーロッパや北米、オーストラリアでも患者が発生し、6月6日現在780例が報告されています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別, 年齢, 症状, 感染地域^{*}, 感染経路^{*}の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- ・ 二類: 結核 4例(肺結核 3例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 92例(肺結核 45例, その他結核 22例, 潜在性結核感染者 25例)うち喀痰塗抹陽性 17例】
- ・ 新型コロナウイルス感染症 2,883例【1月以降の累積報告数100,943例】
- ・ 四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 10例】
- ・ 五類: 梅毒 6例【1月以降の累積報告数 41例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

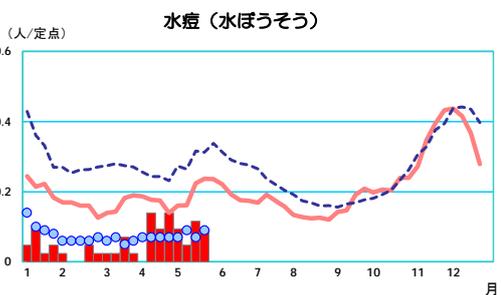
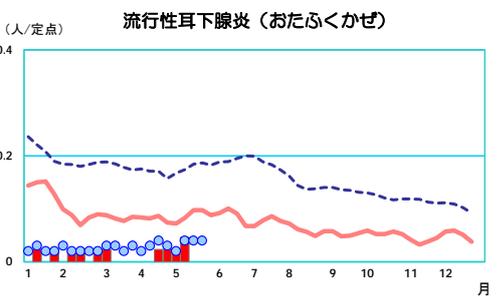
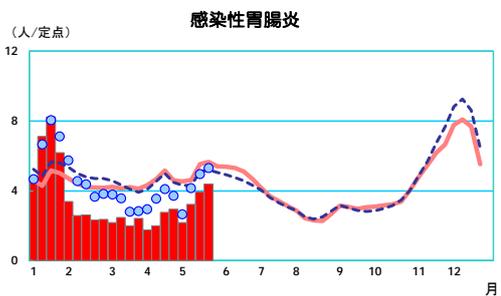
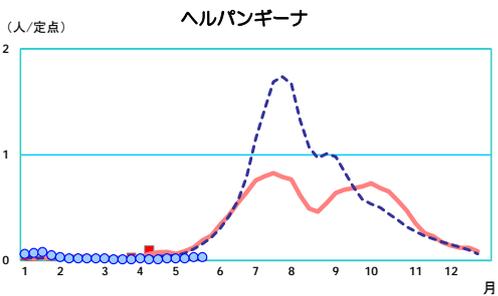
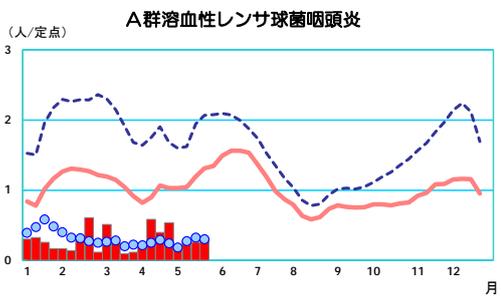
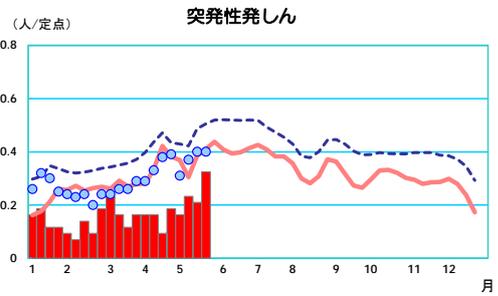
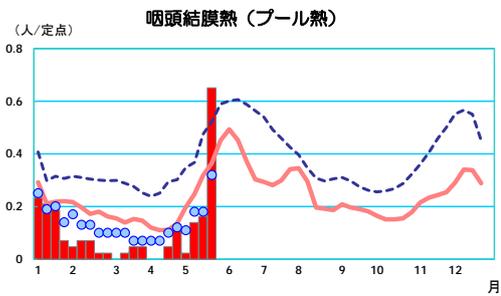
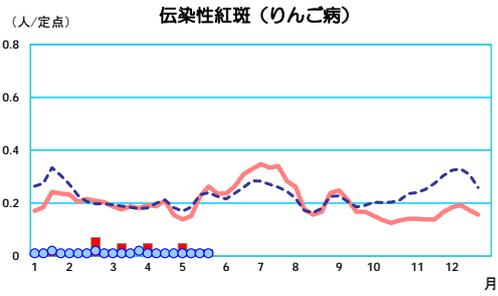
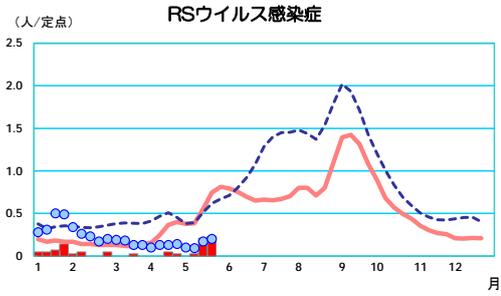
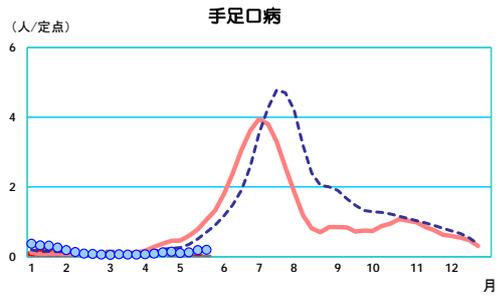
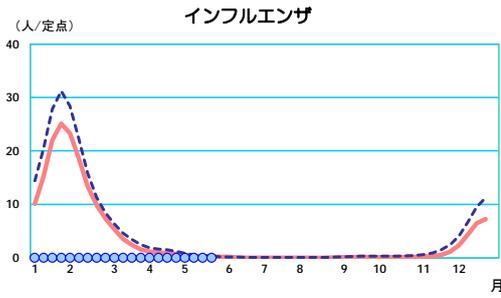
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ [*]	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4. 40	189
	② 咽頭結膜熱	0. 65	28
	③ 突発性発しん	0. 33	14
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 28	12
	⑤ RSウイルス感染症	0. 23	10
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <サル痘>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年6月1日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
^{*} 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



第21週(5月23日～5月29日) トピックス: <サル痘>

2022年5月7日英国健康安全局(UKHSA)は、イギリスでサル痘患者が報告されたと発表しました(*1)。その患者はサル痘の流行地域であるナイジェリアへの渡航歴があったため当初は輸入症例と考えられていましたが、その後、イギリスだけでなくヨーロッパや北米、オーストラリアでもサル痘患者が発生し、6月6日現在、780例が報告されています(表, *2)。

サル痘の病原体はポックスウイルス科に属するサル痘ウイルスで、遺伝的に天然痘ウイルスと近縁であり、形態的にも酷似しています(図)。名前の由来は1958年に実験動物のサルから見つかったために「サル痘」と呼ばれていますが、野生のサルからはウイルスは分離されておらず、自然宿主はアフリカに生息するげっ歯類が疑われていますが、現時点では不明です。2003年にはアフリカからアメリカへ輸入されたげっ歯類から現地のプレーリードッグに感染が広がり、プレーリードッグから人への感染が計47例報告されています。

サル痘は主にアフリカ中央部から西部にかけて発生しており、日本では、感染症法の四類感染症に追加された2003年から現在に至るまで、報告はありません。

感染経路は感染動物に咬まれることや、体液や発疹との接触感染です。感染すると7～14日の潜伏期の後に発熱、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹等の症状が現れ、発熱後数日で全身に発疹が現れます。この症状は天然痘とよく似ていますが、サル痘ではリンパ節腫脹が高い頻度で見られることが特徴です。また、サル痘は天然痘と比べてヒトからヒトへの感染頻度は低く、重症化しにくいと言われています。

今年5月に報告されたサル痘の世界的な発生では、UKHSAが海外渡航歴がない男性間性交渉者(MSM)の症例が多いことを指摘しています。WHOは、報告例の全てがMSMではないとしています(*2)、欧州等で報告されている例では、皮膚病変が性器や肛門周囲に限局している場合があるなど(*3)、これまでに知られているものとは異なる様式で感染が広がっていると考えられます。

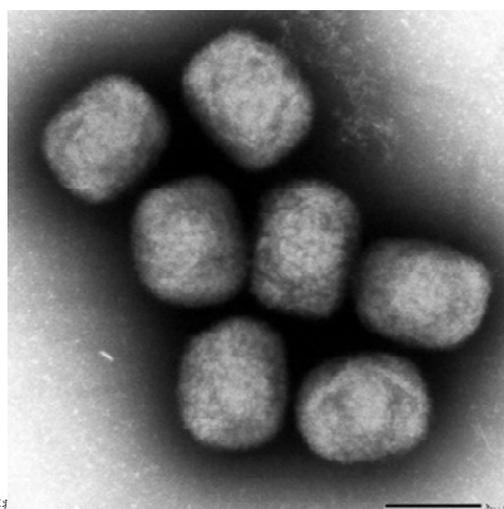
サル痘ウイルスは大きく分けてコンゴ盆地系統群と西アフリカ系統群の2系統あり、後者と比べると前者は強毒で致死率は10～16%と言われています。なお、5月21日までにウイルスの系統が確認されているものはすべて致死率の低い西アフリカ系統群であり、死亡例は報告されていません。

予防法としては、天然痘ワクチンである痘そうワクチンがサル痘にも有効ですが、日本では1976年以降原則として行われていません。予防のためには流行地域への渡航を避けることや、流行地に滞在中はげっ歯類に触らないことが重要です。

表. 非流行国から5月13日～6月2日にWHOへ報告されたサル痘患者数*4

国	確定症例
イギリス	207
スペイン	156
ポルトガル	138
カナダ	58
ドイツ	57
フランス	33
オランダ	31
イタリア	20
アメリカ	19
ベルギー	12
その他	49
合計	780

図. サル痘ウイルスの電子顕微鏡写真*5
(天然痘ウイルスと同じ煉瓦形のウイルス粒子が見られる)



【参考文献】(2022年6月6日閲覧)

(*1)英国健康安全局「Monkeypox cases confirmed in England」
<https://www.gov.uk/government/news/monkeypox-cases-confirmed-in-england-latest-updates>

(*2)世界保健機関「Multi-country monkeypox outbreak: situation update」

<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2022-DON390>

(*3)米国疾病

「Monkeypox Virus Infection in the United States and Other Non-endemic Countries—2022」
<https://emergency.cdc.gov/han/2022/han00466.asp>

(*4)(*2)より引用、一部改変。

(*5)国立感染症研究所「サル痘とは」より引用。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/408-monkeypox-intro.html>

(参考) 獣医公衆衛生学教育研究協議会「獣医公衆衛生学」, 文永堂出版, 2014, p46-47, II.

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第21週

疾病,行政区別報告数

2022年5月23日～2022年5月29日

データ入手日:2022年6月1日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	1	-	3	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	3	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	2	1	29	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	1	-	1	16	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	5	12	8	21	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	4	7	2	56	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	6	-	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	10	28	12	189	4	2	1	14	1	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	0.25	-	0.75	0.50	0.25	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	0.75	0.50	0.25	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	0.50	0.25	7.25	0.25	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	0.20	-	0.20	3.20	-	-	-	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	1.00	2.40	1.60	4.20	0.20	-	0.20	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	0.57	1.00	0.29	8.00	-	0.14	-	1.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	1.20	-	10.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.23	0.65	0.28	4.40	0.09	0.05	0.02	0.33	0.02	-	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第21週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年5月23日～2022年5月29日

データ入手日:2022年6月1日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	10	2	1	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		28	-	6	17	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12	-	-	3	2	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		189	1	15	32	28	26	19	16	11	6	8	8	9	1	9	-	-	-	-	-	-	-
水痘		4	-	-	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		14	-	4	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.23	0.05	0.02	0.12	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.65	-	0.14	0.40	0.09	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.28	-	-	0.07	0.05	0.05	0.07	-	-	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		4.40	0.02	0.35	0.74	0.65	0.60	0.44	0.37	0.26	0.14	0.19	0.19	0.21	0.02	0.21	-	-	-	-	-	-
水痘		0.09	-	-	-	-	-	0.05	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.05	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.33	-	0.09	0.19	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第21週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年6月1日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	1	-	1	9	10
咽頭結膜熱	2	5	1	6	7	28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	23	8	12	11	12
感染性胃腸炎	119	127	94	139	169	189
水痘	4	6	4	2	5	4
手足口病	-	2	2	1	3	2
伝染性紅斑	-	-	2	1	1	1
突発性発しん	4	8	7	10	9	14
ヘルパンギーナ	1	2	-	-	1	1
流行性耳下腺炎	1	1	1	2	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	2	2	1	1	1
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	150	177	121	175	216	262

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.05	0.02	-	0.02	0.21	0.23
咽頭結膜熱	0.05	0.12	0.02	0.14	0.16	0.65
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	0.53	0.19	0.28	0.26	0.28
感染性胃腸炎	2.77	2.95	2.19	3.23	3.93	4.40
水痘	0.09	0.14	0.09	0.05	0.12	0.09
手足口病	-	0.05	0.05	0.02	0.07	0.05
伝染性紅斑	-	-	0.05	0.02	0.02	0.02
突発性発しん	0.09	0.19	0.16	0.23	0.21	0.33
ヘルパンギーナ	0.02	0.05	-	-	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	0.02	0.02	0.05	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	3.49	4.27	2.97	4.15	5.10	6.17

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。